

連載

Turbo HAMLOGの 部屋

Turbo HAMLOG 開発者
JG1MOU 浜田 博 Hiroshi Hamada

第10回

Turbo HAMLOG/WinのQSOデータ入力

Turbo HAMLOG/Win (以下、HAMLOGと略します) のQSOデータ入力について
本誌 2025 年 3 月号の続きをご紹介します。

Date (交信年月日)・Time (時間) の入力

図1は、QSO データ入力ウィンドウの Date と Time の入力欄です。コールサインを入れて Enter キーを押した瞬間の日付と時間が入っています。

Date と Time の入力欄では BackSpace キーや Delete キーは無効にしてあり、文字は常に上書き入力モードになっています。修正する場合は、直接数字を入力してください。

図1 入力ウィンドウの Date, Time 入力欄

図2 入力環境設定左下の
JST/UTC 選択項目

図2の入力環境設定の左下部分では、時刻の JST (日本標準時) と UTC (協定世界時) を、あらかじめ以下の三択で設定しておくことができます。

【すべて JST】が選択されている場合

相手局が国内局でも DX 局でも JST で入力されます。

【DX 局は UTC】が選択されている場合

DX 局であれば UTC で入力されます。国内局であれば JST で入力されます。

【すべて UTC】が選択されている場合

国内局でも DX 局でも UTC で入力されます。
HAMLOG では、JST の場合は 12:30J のように J が付きます。UTC の場合は、03:30U のように U が付きます。

また、UTC の場合は、04:15Z のように Z を付けて表示することもできます。

図3は、環境設定の [設定 3] タブの右下部分です。[UTC 表示は 01:23Z 形式] にレ点を入れておくと、UTC だった場合は Z が付きます。

これは、U か Z の表示が変わるだけで QSO データの書き換えは発生しません。

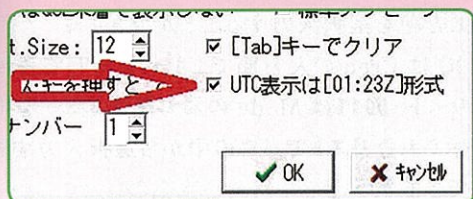


図3 環境設定の[設定3]タブの右下部分で、UTCの表示形式を指定する

図4は、Date・Timeの入力欄にマウスカーソルを近づけた状態で、ヒントが表示されています。

図4のヒントのとおり、Date・Timeの入力欄で↓キーを押すと、その瞬間の日付・時間が再入力されます。[Date]ボタンや[Time]ボタンをダブルクリックしても同様です。

これは、相手局をコールしてもパイルアップでなかなか交信に至らず時間が経過した場合に、現在の時間を1操作で再入力することを想定しています。

図4のヒントのとおり Shift + ↓を押した場合は、その瞬間の日付・時間が、JST/UTC が上記の逆で再入力されます。

図5は環境設定の[設定1]タブです。[最終データの日付時間をコピーする]にレ点を入れておくと、手書きのログ帳から転記するのが楽のように、現在の日付時間ではなく、最後の交信データの日付時間がコピーされます。

また、[最終データの日付時間をコピーする]に淡



図4 Date, Time 入力欄のヒント表示

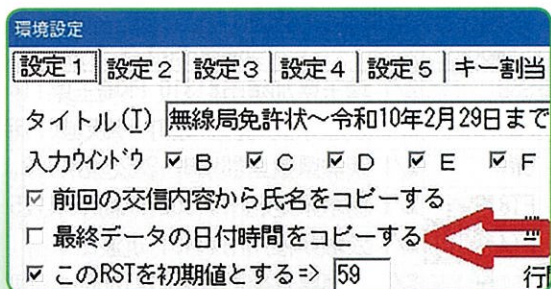


図5 環境設定の[設定1]タブ、最終データの日付時間をコピー

色のレ点を入れた場合は、Time の欄の分の位置にカーソルが行きます。ここは黒のレ点、淡色レ点、レ点なしの三段階です。

通常の無線交信をするときは、忘れずに図5の[最終データの日付時間をコピーする]のレ点を外しておきましょう。

QSO データの日付・時間を修正する場合

図6は、[データの表示&修正]ウィンドウです。Date・Timeの入力欄にマウスカーソルを近づけた状態で、ヒントが表示されています。

日付や時間を修正する場合は、直接数字を入力してください。

図6でヒントが表示されていますが、Date・Timeの入力欄で↓キーを押すと、交信時刻が UTC だった場合は JST に変換されます。[Date] ボタンや [Time] ボタンをダブルクリックしても同様です。

Date・Time の入力欄で Shift + ↓キーを押すと、交信時刻が JST だった場合は UTC に変換されます。

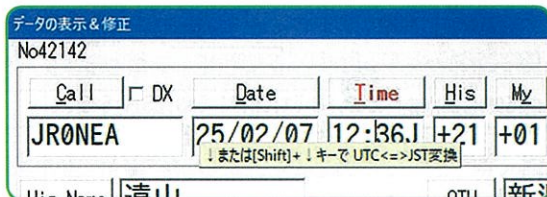


図6 [データの表示&修正]ウィンドウの Date, Time 入力欄とヒント表示

His・My (RSTレポート)の入力

図7は、入力ウィンドウの RST レポート入力欄です。His 欄は、自局が受信した相手局の信号レポートを入力します。相手局に送ったレポートです。

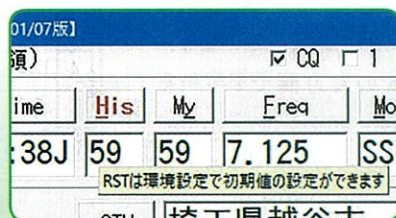


図7 入力ウィンドウの RST レポート入力欄とヒント表示

My 欄は、相手局が受信した自局の信号レポートを入力します。相手局から送られたレポートです。

His・My それぞれ初期設定の場合で3文字まで入力できます。

図8は、環境設定の[設定1]タブで、[このRSTを初期値とする]にレ点が入っている場合は、この値が優先して入力されます。図8では59です。

また、図8の[599形式指定]にレ点が入っている場合、モード(電波型式)に応じてRST欄を自動的に変えることができます。

変わるのは、モードの文字列に変更があったときと、入力ウィンドウがクリアされたときです。

図8の例では、SSBとFMでは59、CW、A1では599、SSTVでは595のように入ります。

これら以外のモードのときは、[このRSTを初期値とする]で設定したレポート(図8では59)が入ります。

入力ウィンドウ B C D E F フォント

☒ 前回の交信内容から氏名をコピーする

☐ 最終データの日付時間をコピーする

☒ このRSTを初期値とする => 59

☐ システムフォントを使う

☒ QSL欄の初期値とする => J

☐ QSL発行済みとする Prefix 8J, 8N=N

☒ 599形式指定 SSB, FM=5*; CW, A1=5*9; SSTV=5*5

Wkd/Cfm除外 PN

行間隔指定 8

過去のQSOからQTHを

前回交信のQSL欄をコ

ワッチデータを使用

図8 環境設定の[設定1]タブ。RST入力欄の初期設定ができる

Freq (周波数), Mode (モード)の入力

図9は、入力ウィンドウのFreq, Modeの入力欄です。

初期設定の場合で周波数は7文字まで、モードは4文字まで入力できます。周波数の単位はMHzです。

Freq, Modeは、入力ウィンドウごとに前回入力した値が残っています。

Freq, Modeの入力欄で↓キーを押すか、[Freq] ボタンや[Mode] ダブルクリックするとリストボックスが開き、環境設定の[プルダウン]タブで

設定した値を選択入力することができます。

図10はFreqの入力欄で↓キーを押して表示されたリスト、図11はModeの入力欄で↓キーを押して表示されたリストで、この中から選択入力することができます。

図12は、環境設定の[プルダウン]タブで、ここで登録しておいた周波数やモードを選択入力することができます。

また、パソコンとリグをUSBケーブルなどで接続し、リグの周波数やモードを直接取り込むことや、

My Freq Mode Code

59 7.070 SSB 1222

千葉県我孫子市

図9 入力ウィンドウのFreq, Mode入力欄とヒント表示

3.5 7 50 144 430 .125

7.058 SSB 3805

愛媛県新居浜市

図10 Freq入力欄で↓キーを押して表示されたリスト

SSB FM CW FT8 FT4

7.058 SSB 3805

県新居浜市

図11 Mode入力欄で↓キーを押して表示されたリスト

環境設定						
設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	キー割当	プルダウン
No	Freq	Mode	Remarks 1・2			
1	3.5	SSB	%/1 埼玉県加須市#1310 PK埼玉県114			
2	7	FM	%/1 茨城県猿島郡五霞町 PK茨城県67,利			
3	50	CW	%/1 茨城県猿島郡境町 PK茨城県083,			
4	144	FT8	%/1 栃木県足利市#1502 PK栃木県125			
5	430	FT4	%/1 茨城県桜川市#1431 筑波山%			
6	.125		%/1 群馬県甘楽郡甘楽町#16004A PK群			

図12 環境設定の[プルダウン]タブ

入力ウィンドウの周波数やモードをリグに送ることもできます※1。

FT8で運用する場合は、自動的にレポートや周波数、モードなどが転送されてくる仕組みがありますので、これらの設定を気にする必要はありません。別の機会に改めて解説したいと思います。

市区町村コードの入力

図13は、入力ウィンドウのCode、G・L、QSL関係の入力欄です。

Code入力欄には市郡区番号、町村コードやDXコードが6文字までの入力となります。

図13 入力ウィンドウのCode、G・L、QSL入力欄とヒント表示

DX局とのQSOの場合

基本的に、コールサインを入力したら自動的にDXCCエンティティがQTH欄に入ります。

また、Code欄にはHAMLOG独自のエンティティを識別するためのコードが入りますので、特に何もする必要はありません。

国内QSOで相手局のJCC番号などが分かる場合

交信中、相手局が運用場所のJCC番号などを言ってきた場合は、入力ウィンドウのCode欄に1文字以上入れて↓キーを押すか、[Code]ボタンをダブルクリックするとコード選択ウィンドウが表示されます。

図14は、Code欄に“151”と入れて↓キーを押した状況です。“151”から始まる地域が一覧表示されますので、選択入力することができます。

国内QSOで相手局の市郡区町村名が分かる場合

交信中、相手局が運用場所の市等の名称を言ってきた場合は、F5キーを押して頭文字を入力し、一覧表示させます。

図15は、入力ウィンドウ上でF5キーを押し、地名の頭文字を入れてEnterキーを押した状況です。

図15では1エリアで“い”から始まる市の一覧が表示されていますので、例えば、相手局の運用場所

No	Code	QTH	Flag	1.
/	1510	栃木県大田原市	4お	1
0	1511	栃木県矢板市	4や	1
1	1513	栃木県那須塩原市	4な	1
2	1514	栃木県さくら市	4さ	1
3	1515	栃木県那須烏山市	4な	1
4	1516	栃木県下野市	4し	1
5	16001	群馬県吾妻郡	5あ	1
6	16001B	群馬県吾妻郡草津町	7く	1

図14 Code入力欄に3文字入れて↓キーを押した状況

No	Code	QTH	Flag	1.
/	1026	東京都稲城市	4い	1
0	1115	神奈川県伊勢原市	4い	1
1	1203	千葉県市川市	4い	1
2	1219	千葉県市原市	4い	1
3	1231	千葉県印西市	4い	1

図15 地名のひらがな頭文字を入れた状況

※1 HAMLOGとリグの接続については、本誌2024年11月号と12月号で解説しました。

が“千葉県印西市”だった場合、↓キーで“千葉県印西市”を選択し、Enter キーで確定すると Code 欄と QTH 欄に入力されます。

一覧の左端の数字の“3”を押すだけでも Code 欄と QTH 欄に入力されますので簡単です。

図15の場合は“市”であるためF5キーを押しましたが、次の表のとおりキーが割り当てられています。

市 F5 キー	郡 F6 キー	区 F7 キー
町 F8 キー	村 F9 キー	DX F4 キー

これらのキーは、環境設定の[キー割当]タブでカスタマイズすることもできます※2。

この頭文字による Code と QTH 入力、どの入力欄を編集集中であっても操作可能です。例えば、RST レポート欄を編集集中に相手局が QTH を言った場合でも、Code 欄にカーソルを飛ばすことなく Code と QTH を入力することができます。

G・L(グリッドロケーター)の入力

図13の[G・L]入力欄では6文字までの入力となります。

基本的にグリッドロケーターを4文字、または6文字入力することを想定していますが、POTA 番号や IOTA 番号を入力しておく、というような使い方もできるかもしれません。

QSLの入力(1文字目)

図13のQSL入力欄では3文字の入力となります。QSL入力欄は、左から1文字ずつQSLカードの経由先(Via)／QSL発行済み(Sent)／QSL受領済み(Rcvd)の順です。

図16は環境設定の[設定1]タブで、[QSL欄の初期値とする]にレ点が入っている場合は、ここで指定した文字(“J”など)が優先されて1文字目の「QSLカードの経由先」に入ります。

レ点が入っていない場合は、前回入力した文字が残って再利用することとなります。

1文字目はどのように入力しても構いませんが、JARL 経由の場合は“J”を、QSLを発行しない(印刷しない)場合は“N”を、QSLマネージャー経由の場合は“M”を入力するのが一般的です。

1文字目が“M”と入力されてあって、Remarks 1 か Remarks 2 のどちらかに @JG1MOU のように入力されてあればQSLマネージャー経由と判断し、QSLカード印刷の際にそのコールサインをQSLカードのJARL転送枠に印字することができます。

図16 環境設定の[設定1]タブ

QSLの入力(2文字目, 3文字目)

図13のQSL入力欄の2文字目、3文字目は文字があるかないかで判断することとなりますので好きな文字を入力してください。

2文字目(QSL発行済み)には、HAMLOGでQSLカードを印刷したときにQSL発行済みマークとして1文字書き込まれます。初期設定では*印が書き込まれます。

3文字目(QSL受領済み)は、[データ表示&修正]ウィンドウやQSL未着コール順一覧で、表示中にInsertキーを押すとQSL受領済みマークとして*印が書き込まれます。

英字の場合は、大文字で入ります。Shiftキーを押しながら英字キーを押すと、小文字で入ります。

※2 キーのカスタマイズについては、本誌2024年12月号で解説しました。

Name(名前)とQTHの入力

図17は、His Name, QTH, Remarks(備考)の入力欄です。

初期設定でHis Name欄は半角で12文字、QTH欄は半角で28文字入ります。

図18は入力環境設定で、ここでレ点の入っている

His Name	JARL	QTH	東京都豊島区
Remarks1			
Remarks2	一般社団法人日本アマチュア無線連盟		

図17 入力ウィンドウのHis Name, QTH, Remarks入力欄

入力環境設定 (LOG-[A] IC-7410)	
ログ入力設定	リグ接続設定
IME自動起動	
☒ 頭文字	☒ 各入力項
☒ NAME	☒ Date
☒ QTH	☒ Time
☐ Remarks 1	☒ His R
☐ Remarks 2	☒ My RS
	☐ FREQ
☐ Remarks 1 保存	Remarks欄
☐ Remarks 2 保存	● 最初→
DX局はUTC	

図18 入力環境設定のIMEが自動起動する項目設定

る入力欄はIMEが自動起動しますので漢字の入力ができます。

図19のメニューは、QTH欄で↓キーを押すか、または[QTH]ボタンをダブルクリックしたときに表示される検索メニューです。

過去にQTH欄の地域と交信していないか検索し、該当データがあれば一覧表示します。

メニューの下の方には、前回保存したQSOデータのコードとQTHが5個まで表示されます。同一地域と連続で交信する場合、このメニューから選ぶと楽です。

それでは、次号に続きます。



LOG-[A] IC-7410 JA1RL [JARL.mDAT 2025/01/07版]	
3回目のQSOです (QSL:1枚受領)	
Ca	me
JA1I	17J
His N	
Remark	
Remark	
A. そのまま検索 (市・郡) B. 現在のバンド (市・郡) C. 現在のモード (市・郡) D. バンドモード (市・郡) E. そのまま検索 (区町村) F. 現在のバンド (区町村) G. 現在のモード (区町村) H. バンドモード (区町村) Q. 2525 大阪府柏原市 R. 4102 佐賀県唐津市 S. 010109 札幌市手稲区 T. 2601 和歌山県和歌山市 U. 0802 新潟県長岡市	

図19 QTH入力欄で↓キーを押して表示された検索メニュー

Column

Turbo HAMLOG/Winの最新バージョン

本稿執筆時の最新バージョンは次のとおりです。

- Turbo HAMLOG/Win Ver5.45a (2025/02/05)
- HAMLOG E-Mail QSL (略してhQSL) Ver5.08c (2025/02/04)

HAMLOGやhQSLの質問で、現在では対応済みの機能や不具合についての内容だったということがあります。

バージョンアップにより機能追加や不具合が修正されていることがありますので、なるべく最新版をご利用ください。